

令和4年度 学校自己評価システムシート (大妻嵐山中学校・高等学校)

| | | | | |
|--------|--|------|--|-----------------|
| 目指す学校像 | ○建学の精神「学芸を修めて人類のために」を実現する学校 自らを学問的・人間的に鍛え、己の使命を果たし人類に貢献する女性を育成する ○学祖大妻コタカ先生の教育理念に基づき、人格の陶冶をめざす学校 自らを厳しく律し、他を思いやる生徒、広い教養と高い志を持つ生徒を育成する | 重点目標 | 1 未来を生き抜く「探究する力」を育成する 2 未来を生き抜く「表現する力」を育成する 3 未来を生き抜く「感じる力」を育成する 4 未来を生き抜く「自ら学ぶ力」を育成する 5 組織的な広報活動を展開し、入学者を確保する | 達成度 |
| | | | | A ほぼ達成 (80%以上) |
| | | | | B 概ね達成 (60%以上) |
| | | | | C 変化の兆し (40%以上) |
| | | | | D 不十分 (40%以下) |

※ 達成度は、方策の評価指標に対する評価。

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | |
|----------------------|---|---|--|---------------|--|
| 年 度 目 標 | | | | | |
| 番号 | 現状と課題 | 目標 | 具体的方策 | 達成状況及び次年度への課題 | |
| I 入試 広報 | <ul style="list-style-type: none"> ・中入生は50名弱、高入生は内進生を含め120名弱、原因分析が必要 ・《中学入試》A入学者増とB受験者増の二本柱で募集活動を行う ・Aは昨年度新設した「学びエキスパート入試」を軸に進める必要 ・Bは「大妻奨学入試」を軸に入試日程を他校との併願状況を鑑みる必要 ・《高校入試》「単願者数」を上げることが急務となっている ・前年比で出願率は上がっているため出願者総数を上げる必要 ・地域推薦制度の拡充、様々なツールでの募集活動で魅力を発信し「大妻嵐山」の知名度アップを図る必要 ・高校の「四つの力」の育成事業を拡充し「品格ある自立した女性」育成が喫緊の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○入学定員の確保 中学：50名 高校：130名 を 目標（最終150名） ○出願者数の増加 中学：前年以上 高校：前年1.2倍以上 | <ul style="list-style-type: none"> ①生徒募集活動の新設及び精選・統廃合 <ul style="list-style-type: none"> ・中2 対象説明会 ・大手塾と共催した進学説明会の新設 ・従来の説明会の精選と統廃合（入試問題解説会と入試体験会の統合） ・卒業生による中学校訪問の再開、全職員による中学校訪問の再開 ・地域推薦、校長推薦の拡充し単願者を増加させる ②高校3コースのPR ポイントの明確化 及び受験生への明示 <ul style="list-style-type: none"> ・高校3コース運営委員会設置しPR ポイント検討、指導方法等の共有 ・各コースの指定校推薦への優先権検討 ③スクールバス運行改善に向けての取組 <ul style="list-style-type: none"> ・運行改善委員会設置、R4年度の各路線の乗車料金値上げ実施等と3年後のルートの変更等を検討、R5年度生徒募集から受験生に周知 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○中高の生徒募集とも昨年度より大幅に向上した。ただ高校の入学者は昨年度に比べ内進生が大幅に減少したため昨年度とほぼ同数にとどまった。 ①計画した具体的方策はすべて実施し、単願者増加につなげた。今後とも生徒による母校訪問や全職員による中学校訪問、高校受験セミナー等は継続していく。 ・入学手続き者：中学52名、高校121名(85名+36名内進生)。高校は今年度内進生が少なく目標を達成できなかった。 ②出願者：中高ともにほぼ昨年通りとなった。 ③高校3コースのPRポイントの明確化と各コースの大学指定校推薦の優先権について受験生に周知できた。結果OGコースの単願者が大幅に増加した。 ④委員会を設置し、各路線の乗車料金の適正化を図った。また、ルートの変更等は継続審議中である。 |
| II 進路 学習 指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路は概ね生徒個々の進路希望実現は図られているが、難関大学への希望実現が達成されたとはいきれない。生徒一人ひとりのより高い次元での進路実現を果たすためにさらに指導方法を工夫していく必要がある。 ・学習時間及び学力の二極化については、コロナ禍の中でさらに広がりを見せている。スタディサプリなどのツールを活用する一方で、Classi等を通じて今以上に生徒との日常的な双方向のやり取りの機会を多くし、教員⇄生徒間のリレーションを形成していくことで生徒の学習意欲を喚起すること及びコロナ禍の中でも出来るオンラインツール等を利用したキャリア教育などを通して高い志を育成していくことが必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> ○進路実績の向上 第一希望実現率90%以上 ○自学力の向上 自学時間の1.1倍以上 (各学年前年比) | <ul style="list-style-type: none"> ①生徒の進路意識の啓発：企業、大学研究室訪問等との連携事業の拡充 ②具体的な進路指導策：大妻ゼミ及び入学前プログラムの更新・多様な入学生への個別指導の徹底 ③中学校生・入学直後からの自学力育成指導 <ul style="list-style-type: none"> ・国(言語技術)数(習熟度別学習)英(QQE)活用強化・科学研究の発展 ④高等学校・新教育課程 及び 観点別評価を1年次から年次進行 ・入学時から自学力育成指導・コタカ先生に学ぶ探究活動新設 ⑤国際理解教育・海外修学旅行(SDGs)の視点で修学旅行先を検討 ・海外研修実施イギリス、オーストラリア、アメリカ、カンボジア等 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の第一希望実現率は学校推薦型入試を中心に概ね90%以上を達成している。国公立入試と私学一般入試を残すが、昨年度以上の結果を残すことが見込まれる。自学力の向上はまだ不十分で検討の余地を残す。 ①太陽ホールディングス研究室見学や近隣大学との連携事業、夢ナビライブ等を通して生徒の進路意識の啓発を図ることができた。 ②大妻ゼミの拡充、多様化する学校推薦型入試に対し丁寧に対応できた。 ③中学：自ら学ぶ力育成肯定的評価は生徒77.5%(71.2%)、保護者69.0%(60.4%) ④高校：自ら学ぶ力育成肯定的評価は生徒73.2%(78.4%)、保護者70.9%(73.7%) ⑤大妻精神の理解は生徒で7割、保護者で8割5分を超えて評価されている。 ⑥コロナ禍もやや収まってきたが、海外修学旅行はできず、沖縄に変更して実施した。イギリス、オーストラリア、カンボジア研修は実施できた。 |
| III 生徒 指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・コタカ先生の教えを繰り返し浸透させる必要がある。そのためにも礼法指導・道徳教育・論語教育を継続していく。特に探究の時間における「コタカ学」の充実・発展が今年度の大きな課題である ・挨拶及び整容指導は概ねできているが、気を緩めればすぐに乱れてきてしまう。この1年でしっかりと定着を目指す必要がある。 ・生徒会本部、文化祭実行委員会等は自覚を持って活動している。このような活動の輪を、生徒全体に広げ、自立活動をさらに活性化していきたい ・強化部を核として複数の部活動において結果を残せるようにしていくことが課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> ○礼法指導、道徳・論語教育ができ「コタカ学」が軌道に乗ったか ・自発的挨拶が出来たか ・服装が整っていたか ○生徒の自主的活動ができたか ・制限下でも部活動の活性化ができたか | <ul style="list-style-type: none"> ①自校教育：探究活動の一環としてコタカ先生の教えを学習 <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の挨拶、整容指導の実施 ②安全・安心教育 <ul style="list-style-type: none"> ・登下校メールの高校への拡充継続、全中学生及び高校2年生まで ・ブレザー、スカート、リボン、靴下等の整容指導の徹底と制服にズボンの導入 ・警察、地域、保護者による防犯パトロールの実施 ・スクールカウンセラーによる対生徒、対保護者への相談体制の強化 ③部活動指導の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・強化部を中心とした部活動のさらなる活性化、活動実績のPR充実 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○自発的な挨拶、身だしなみへの意識は高まりつつある。生徒の自主的な活動(ｽｸｯｸｽ導入)や部活動も目覚ましい実績を上げた。 ①コタカ学の実施、毎朝の挨拶・整容指導を実施してきた。 ②登下校メールへの拡充、ズボン(ｽｸｯｸｽ)の導入を図ることができた。保護者による防犯パトロールはコロナ禍で中止した。 ③サイエンス部ISEF世界大会出場、22年日本学生科学賞1等賞受賞、中学バレーボール部県大会優勝2回・関東大会出場ができた。 |
| IV 組織 体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・校長の教育方針を具体化するため全職員に確実に繰り返し明示する必要がある。 ・緩やかなトップダウン体制を維持するためにも、各主任を中心とした自走体制の確立が必須である。 ・各分掌主任クラスと連携を密に図りミドルマネジメントを徹底していく必要がある。 ・既設、新設の委員会等の組織を有効に機能させていく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ○経営方針の具体化、明示ができたか ○気軽に来室が増えたか ○教職員が自走を始めたか ○評価アンケート等はでき向上したか | <ul style="list-style-type: none"> ①目指す経営方針を明示し具体化のため繰り返しの発信・情報共有をする ②教職員と面談を年に最低2回実施する。特に主任層と面談を繰り返し実施し権限の委譲を進める ③教職員の自走を促し各事業・取組の責任分担を明確化し、各担当が責任を持って遂行できるようにする ④ワークライフバランスの実現のために長期休業中の学校閉鎖日を設定 ⑤ファイリングシステムを導入、仕事が人につかない仕組み作りを構築 ⑥学校評価に関する学校自己評価委員会を年2回開催しアンケート実施 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○経営方針は明示され教職員の自走が始まってきている。 ①現在までに校長通信を34号配信。目指す経営方針の明示のために情報発信し共有化している。 ②教職員との面談を2回以上実施済み。主任等との面談を繰り返しミドルマネジメントに努め、権限の委譲を進めた。 ③各部署で教職員は責任をもって自走を始めている。 ④ワークライフバランス実現を目指し、夏季休業中7日、冬季休業中6日の学校閉鎖日を設けた。 ⑤ファイリングシステムは、過去にそうした習慣がなく、なかなか定着をしない。 ⑥学校評価委員会は予定通り開催できた。 |
| V 環境 整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した4号館の倉庫化と美術室・吹奏楽練習室の改修設置が喫緊の課題である ・基幹サーバのクラウド化、全教室の電子黒板のリプレース・黒板更新が次の課題である ・全教室に遮光カーテン設置や体育館折り畳みイスの更新がさらに必要である ・第2体育館の床改修も次に控えている | <ul style="list-style-type: none"> ○美術室・吹奏楽練習室の改修ができたか ○必要な改修等がどれだけ進められたか ○教職員の理解や協力が十分得られたか | <ul style="list-style-type: none"> ①企画会議、担当部署、担当教員等と十分協議し共通理解の上で進める ②教育活動上の必要度等を勘案し優先順位の基に進める <ul style="list-style-type: none"> ・生徒、生徒会あるいは保護者の要望等も掌握した上で、整備を進める ③学校行事等の品位ある実施に欠かせない施設設備視点を協議し共通理解を図り進める ④予算の範囲・制限も勘案しながら、学院との協議を重ね出来る限りの充実を進める | A | <ul style="list-style-type: none"> ○美術室・吹奏楽練習室の改修は終了できた。また、電子黒板の改修も全面的に終了できた。 ①環境整備にあたり、各部署と十分協議し共通理解の上で進めることができた。 ②生徒・保護者の要望を踏まえ、教育活動上の優先順位を配慮し進めることができた。 ③学校行事や予算を配慮しつつ、整備日程・規模を調整できた。 ④厳しい予算制限がある中であるが、教育活動上の優先順位を精査し、かつ理解・協力を得ながら進める必要がある。 |

第三者・学校関係者評価集計結果

| | | | |
|------------------------|---|-----|--------------------------|
| 評価実施年度 | 令和4年度 | 学校名 | 学校法人 大妻学院 大妻嵐山中学校高等学校 |
| 目指す学校像 (ミッション) | ○建学の精神「学芸を修めて人類のために」を実現する学校 自らを学問的・人間的に鍛え、己の使命を果たし人類に貢献する女性を育成する ○学祖大妻コタカ先生の教育理念に基づき、人格の陶冶をめざす学校 自らを厳しく律し、他を思いやる生徒、広い教養と高い志を持つ生徒を育成する | | |
| 重点目標 | 1 未来を生き抜く「探究する力」を育成する 2 未来を生き抜く「表現する力」を育成する 3 未来を生き抜く「感じる力」を育成する 4 未来を生き抜く「自ら学ぶ力」を育成する 5 組織的な広報活動を展開し、入学者を確保する | | |
| 評価項目 | 評価の観点 | | 評定 |
| 目指す学校像 及び 重点目標 | ・ 目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。 | | 4.6 |
| | ・ 学校が抱える課題の解決に向け、生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているかどうか。 | | 4.2 |
| 重点目標 達成への 取組状況 | ・ 重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。 | | 4.2 |
| | ・ 方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。 | | 3.8 |
| | ・ 校長の的確なリーダーシップの下、教職員がその職責を果たしているか。 | | 4.2 |
| | ・ 目標の達成状況及びそのプロセスは適切であるか。 | | 3.6 |
| | ・ 達成状況や課題を踏まえ、取組の改善・更新は適切に図られているか。 | | 3.8 |
| 開かれた学校 づくりの 取組状況 | ・ 保護者や地域等に対して学校に関する情報等を積極的に提供するとともに、その意見や評価を踏まえて開かれた学校づくりが図られているか。 | | 4.0 |
| 総合評価 | 総合評価の所見 ● 学校経営の要は、目的を持った生徒が如何に集まるかにあります。近隣の公立高校が苦戦する中、貴学は校長のリーダーシップのもと、教職員が課題を明確に持って組織的に教育活動に当たり実績を伸ばしていることがうかがえます。付属高校の強みを生かした高大連携事業としての単位の早期取得の実現、中学校部の「サイエンス発表会」の充実、高校の部の学生科学賞の成果、さらには県内では事例の少ない教諭賞はその顕著な表れであり、学校の特記すべき特色と言ってよいと思います。今後は高校の部の生徒・保護者の満足度が幾分低下傾向にありますのでその要因を分析するとともに、中学校部における内進生徒の増加させる工夫やスポーツに頼らない募集も大切かと思えます。総じて極めて優れた学校経営がなされていると思います。 ● 生徒募集も向上し、出願者の増加もみられ非常に良い。[自ら学ぶ力育成評価]も高く生徒7割保護者8.5割の大妻精神の理解も高いと思われる。HPも充実しており見学のきっかけとなるので学校に関することを今年度のようにテレビ埼玉、埼玉新聞、他新聞で活用してください。 ● 中高の生徒募集とも昨年度より大幅に向上したことは、現状と課題解決に向け、目標数値、生徒募集活動の新設と精選・統廃合や高校3コースのPRポイントの明確化など、具体的方策の成果が出たと思います。次年度への課題を解決して目標の達成につなげていただきたい。 ● 厳しく判断してしまいましたが、少子化の現在、多くの生徒を集め、運営していく為に、「大妻嵐山」の魅力を発信しきれないと感じます。例えば、進路状況や進路実績を拝見すると数字だけで評価はできませんが、多くの方が着目するのは数字ではないでしょうか？ 結果を出していくために一人一人の生徒に対してのアプローチに(学習面だけでなく)課題が残されているように感じます。 ● 目標達成に向けた様々な工夫や取組が継続されており、情報が公開されている点が良いと思います。 | | |

(評定… 5: 極めて優れている 4: 非常によい 3: 良い 2: 課題がある 1: 課題が多く速やかな改善が必要)